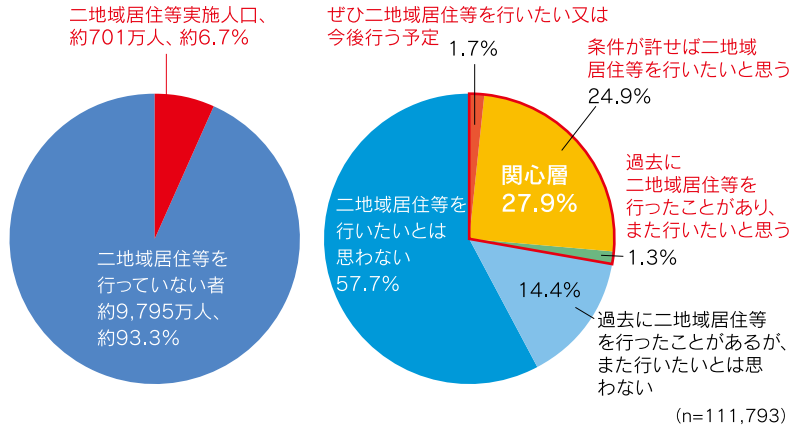


データでみる二地域居住の魅力

データの出展/国土交通省「二地域居住に関するアンケート」(インターネット調査、令和4年8月31日～9月12日)

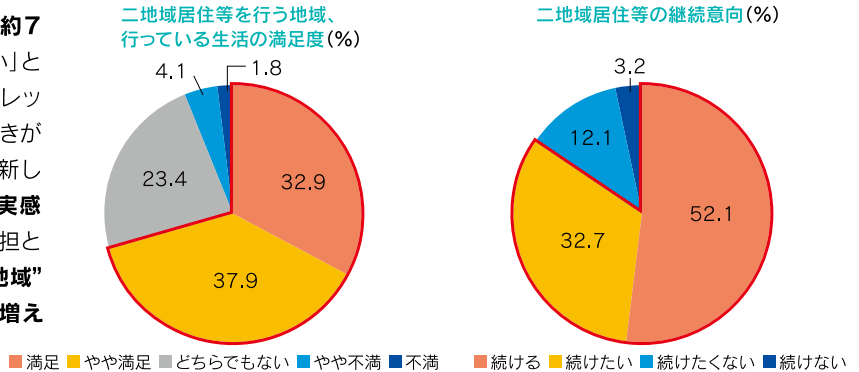
① 二地域居住、約701万人が実践中!

全国の18歳以上のうち、約6.7%(約701万人)が、主な生活拠点とは別の地域でも暮らす「二地域居住」などを実践していると推計されています。刺激にあふれた都会、穏やかな海辺、山あいの静かな集落、歴史あるまち並み、自然に囲まれた環境など、**日常とは異なる場所での暮らし**を楽しむ人が増えています。また、現在はそうした暮らしをしていない人のうち、約3割(27.9%)が「やってみたい」と回答しており、**自分らしく、自由に豊かな暮らしを求め**る人が着実に広がっていることがわかります。



② “もうひとつの地域”での暮らし、満足度も高く、続けたい人が多数!

実際に二地域居住をしている人のうち、**約7割が「満足」**、8割以上が「今後も続けたい」と答えています。理由として、「楽しい」「リフレッシュできる」といった気分転換に加え、「生きがいを感じる」「自分らしさを実感できる」「新しい出会いがある」など、**暮らしの豊かさを実感している人が多い**です。移動や費用の負担といった課題はあるものの、“もうひとつの地域”での暮らしに前向きな価値を見出す人が増えています。



③ どうして二地域居住を始めたの?

二地域居住を始める理由には、いくつかのパターンがあります。

一方で、海辺の町や農山漁村など自然豊かな地域を選ぶ人は、

- 「自然の中で過ごしたい」
- 「日常ではできない体験をしてみたい」

といった新しいライフスタイルへの憧れがきっかけになっています。また、都市やその郊外など市街地を選ぶ人は、

- 「単身赴任」
- 「テレワーク」
- 「副業・兼業」

など、多様な働き方への変化が二地域居住の後押しになっているケースもあります。

まず多いのは、すでに家族や知人が住んでいた地域や、職場・学校で通っていたことがある場所など、ゆかりのある地域を選ぶケースです。思い出やつながりがある場所での暮らしは、安心感があります。

(抜粋)

二地域居住等を行うきっかけ	三大都市圏滞在 都市・まち滞在型 (n=1,445)	その他地域滞在 地方都市・まち滞在型 (n=2,212)	農山漁村部滞在型 (n=704)
週末又は長期休暇に田舎や郊外など別の地域で暮らしたいと思うようになった	5.7%	10.8%	17.2%
暑さ又は寒さが厳しい時期(夏休みや年末年始等)に別の地域で暮らしたいと思うようになった	3.4%	6.9%	11.2%
観光や趣味などで来たことがあった(滞在又は日帰り)	7.1%	9.4%	9.5%
家族・親族等、友人、知人に誘われて来たことがあった(滞在又は日帰り)	11.7%	9.8%	7.8%
単身赴任することになった	8.9%	8.6%	2.0%
テレワークを行うようになった	8.0%	6.7%	2.4%
副業を行うようになった	5.2%	5.6%	2.3%
自身や家族・親族、知人等がかつて住んでいた又は職場や学校などに通っていたことがあった	23.0%	21.5%	26.1%
子供の教育又は教育環境を整えるため	6.2%	6.4%	2.7%
管理すべき土地又は建物や墓等(別荘等を含む)があった	13.2%	16.8%	29.5%
家族又は親族等の介護が必要になった	15.3%	14.5%	13.8%
地域に対して憧れや好感、関心、共感、愛着を持った又は元々持っていた	7.7%	9.4%	9.1%
地域の人や環境、地元ならではの活動などに興味を持った	5.1%	5.2%	5.3%
自然環境が豊かな場所に行きたかった	6.2%	12.7%	24.7%
仕事よりも趣味・プライベートを充実させたかった	12.8%	11.7%	10.9%
居住地では出来ない体験をしたかった	5.5%	8.8%	12.5%